



## ありあけ

2021(令和3)年  
5月1日(土)

## 「コロナ」禍にどう対応するか

校長 前嶋 正秀

去る4月24日、政府による緊急事態宣言発出に伴う今後の学校の対応をお知らせしました。そのお知らせは、「具体的な対応策」についてのものでしたので、今月の「ありあけ」は、そのような決定をするにあたって本校が大切にしたいことをお伝えしたいと思います。

昨年、未曾有のコロナ禍に見舞われ、最初に本校が重視したのは、「何よりも生徒、保護者、教職員の健康と生命を守る」でした。そしてその後、いわゆる「with コロナ」のフェーズに入ってから、「生徒、保護者、教職員の健康と生命を守る」ことを重視しつつ、「可能な限り、生徒の皆さんの学びを止めない」ととても大切にしています。

こう考えると今回の本校の対応は、これと相反するものとお考えになるでしょう。確かに「学びを止めない」という視点だけで考えればその通りです。

しかし、緊急事態宣言が発出されてもいわゆる「人流」は激減せず(本稿を起こしている4月25日は発出初日ですが、都心部の人の動きには発出前とほとんど変化は見られていません)、GW中の人の移動についても、一部報道では昨年ほどの劇的な減少は見られない、という予想がされています。さらにこれに加え、感染力が非常に強いとされている変異株の蔓延、ご家族に基礎疾患をお持ちのご家庭が決して少なくはないこと、等を踏まえるとき、前述の「生徒の安心・安全の保障」は、思いとしてだけではなく、責務としても前面に出して考える必要があります。

GW中の行動がきっかけで感染してしまうという危険性は、今や普通に考えられることです。仮に、無症状で変異株に感染している人がいて、その人がGW明けに普通に登校することで感染が拡大してしまう、いわゆるクラスターが起こることは、教職員も含めれば1,200人以上が1つの場所で生活する「学校」という場としては、決して考えられないことではありません。これはもう絶対に、何としてでも避けなければなりません。もしこれが起これば、今回のオンライン授業期間よりもずっと長い間、オンライン授業になってしまうからです。そうなることは、先ほどの話に戻りますが、「学びが止まってしまう」とは言えないまでも、かなり制約を受けてしまうことになります。

以上のようなことから、正解のない中での苦肉の策として今回の決定をしました。新年度が始まって学校生活もようやく軌道に乗り、友達にも会えて毎日が楽しくなってきた、と感じ始めている時に、これを中断することは本当につらいです。正直なところ生徒の皆さんにも保護者の皆様にも、申し訳ないという気持ちがありますが、上記の思いや主旨をご理解いただきました上で、何卒ご了承くださいませよう、よろしく願いいたします。

## 4月後半のご報告

本校ホームページにて、以下の記事を投稿しております。

「最新情報」ページをご覧ください。 <https://www.ariake.kaetsu.ac.jp/#page2>

【高校新クラス】高校新クラスの日常第10号

【教育部・生徒部】面談ウイークと防災訓練

【進路部】大学入試合格情報を更新しました

【生徒部】新入生の体験入部、始まる!

【在校生・保護者のみなさまへ】緊急事態宣言発出に伴う対応について

【生徒部】健康的でおいしいお弁当の注文販売(トライアル)を始めました!

\*今後の予定については、急な変更の可能性もありますので、学校からのメール連絡をよくご確認ください。

次回は6/1(火)発行予定です。(広報部)

